

# 一般質問

6月定例会では、6月12日から14日までの3日間にわたり13人による個人質問が行われました。

## 市民クラブ

東日本大震災のガレキ受け入れの前向きな対応

**問** ガレキ受け入れについては、国の回答の何が問題で支障を来しているのか。また、スクラムミーティングでの県知事の提案及び北九州市での検討会傍聴後、どのように検討しているのか。さらに前向きな対応を求める議会決議後2カ月が経過しているが、どのように受け止めているのか伺いたい。

**答** 将来的に放射性セシウムが埋立処分場の排水から検出される可能性がある。科学的な知見等が示されない中、放流水中の濃度が国の基準値を超える可能性も否定できないことが、受け入れに当たって問題だと考



▲放射線量測定調査

えている。県の提案や北九州市の埋立方式が、懸念している問題点を解決できるかに加え、埋立処分場の安全対策等の検討を行っているところである。議会の決議を重く受け止め、安全性の確保と市民の理解を前提条件とし、結論を導き出したい。

## 相生市とのペーロン交流

**問** 相生ペーロン祭りには、本市から代表チームの派遣を行っているが、今後継続的に相互交流を図っていくのか。また、熊本県苓北町ともペーロンによる交流を行っているが、今後、職域チームを派遣できないか。

**答** 相生市とは平成14年にペーロン交流都市の提携を行っており、それ以前からも相互の大会に選手を派遣している。今年は、市制施行70周年、ペーロン伝来90周年の記念大会であったため特別に職域チームを派遣し交流を行った。ペーロンという本市の伝統行事を通じ、他都市との交流を維持してい

くことが、互いの都市の活性化に寄与するため、今後も交流を継続していきたい。また、苓北町への職域チームの派遣については、記念大会の際に検討したい。

## ビワの寒害対応

**問** ビニールハウスが有効であるが、費用が高いことから、その他の簡易施設への誘導と自然災害に対応するための果樹共済加入促進の取り組みについて伺いたい。

**答** 簡易施設への誘導など今後の対策については、民間や関係機関等と連携し、投資効果や寒害対策等の有効性を検証したいと考えている。なお、実証された普及可能な施設は、長崎県や本市の既存の補助制度を活用しながら、本格的な導入を図っていきたい。また、果樹共済加入者数は、ビワ共済の掛金率に割高感があることなどから、昭和58年の117人をピークに、平成23年は7



▲相生ペーロン祭り

人と激減している。農家の方々により加入しやすい制度となるよう長崎県南農業共済組合や関係機関と協議を行い、継続的な共済制度への加入による経営リスク管理の確立を促していきたい。



▲ビワ「なつたより」

## 定住自立圏構想の目的と本市の将来像

**問** 総務省の定住自立圏推進要綱に基づいて、人口交流の多い長与町と時津町との間で定住自立圏構想が進められている。合併時に策定した市町村建設計画が進行中である現在、同構想は拙速に進めるべきではないと考えるがどうか。

**答** 定住自立圏構想は、生活圈及び経済圏が一体化している長与町、時津町を含めた圏域全体で戦略的に人口減少及び高齢化等の課題に対応し、圏域全体の活性化を図ることを目的としている。今後、合併地区を含めた本市全体の活性化につながるよう十分に検討し取り組んでいきたい。また、合併地区の振興については、市町村建設計画の着実な進捗はもとより地域振興計画の策定等、地域と行政が一緒になって取り組んでいきたい。